

高等学校 令和7年度 教科

芸術

科目 音楽Ⅰ

教科：芸術

科目：音楽Ⅰ

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ B 組

教科担当者：（A組α：白鳥） （A組β：白鳥） （B組α：白鳥） （B組β：白鳥） （組： ） （組： ）

使用教科書：（ 教育出版 Tutti+ ）

教科 芸術

の目標：

- 【知識及び技能】・芸術的構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び芸術の多様性などについて理解を深めている。
・創意工夫などを生かした表現をするために必要な技能を身に付け、表現している。
- ・芸術を作り上げる要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、芸術を評価しながらよさや美しさを味わっている。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 【学びに向かう力、人間性等】・芸術と豊かに関わり主体的、協働的に表現し学習活動に取り組もうとしている。

科目 音楽Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・曲想や音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	『都立大島海洋国際高校の校歌を知ろう』 【知識及び技能】 ・歌詞の内容を理解するとともに、都立大島海洋国際高校の校歌を歌えるようにする。 ・音楽を形作る構成要素を適切に用いて歌唱できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歌唱する際に、既に学習した曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方に関連付けて、多面的に捉えたり目的に応じて適切に対応したりする力を養う。 ・音楽を形作る構成要素や音楽表現を伊豆大島の伝統と特徴に紐づけて考察することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・音楽表現の考えを用いて考察するよさを認識し、それらを活用しようとしたり、粘り強く考え音楽的論拠に基づき判断しようとしたりする態度を養う。 ・学習活動を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする態度を養う。	・教科書 ・校歌譜面	○			○	【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、伊豆大島の伝統と特徴について理解している。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現について考えて聴き、どのように歌唱するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・音楽から多様性を捉えること、音楽表現を考えることに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	『楽典～音楽の構成要素～』 【知識及び技能】 ・楽典に関する基本的な概念を理解できるようにする。 ・音楽を形作る構成要素を適切に用いて創作で表すことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構成要素との関わり合いの考えを用いて音楽をどう作るかについて考察し、多面的に捉えたり目的に応じて適切に対応したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・構成要素との関わり合いの考えを用いて考察するよさを認識し、それらを活用しようとしたり、粘り強く考え音楽的論拠に基づき判断しようとする創造性の基礎を養う。 ・学習活動を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする態度を養う。	・教科書	○	○	○	○	【知識・技能】 ・音の連なりや重なりによる響き、音階や音型などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。 【思考・判断・表現】 ・リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・形式や構成を工夫しながら創作することに関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	定期考査							○	○		1
	『ギターを弾こう』 【知識及び技能】	・教科書 ・課題（譜面）					【知識・技能】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり				

	・タブラチュア譜を理解するとともに、与えられた課題を適切に弾けるようにする。 ・音楽を形作る構成要素を適切に用いて演奏できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・演奏する際に、既に学習した曲に正しい弾き方を関連付けて、多面的に捉えたり目的に応じて適切に対応したりする力を養う。 ・音楽を形作る構成要素や音楽表現を楽器の持つ独特な特徴とその音色について考察することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・音楽表現の考えを用いて考察するよさを認識し、それらを活用しようとしたり、粘り強く考え音楽的論拠に基づき判断しようとしたりする態度を養う。 ・学習活動を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする態度を養う。				りについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ギターの奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をするとともに関心をもち、主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	○	○					12
2学期	『日本伝統音楽、日本伝統楽器に触れよう』 【知識及び技能】 ・日本の伝統音楽、楽器を理解するとともに、適切に演奏できるようにする。 ・日本伝統音楽が作られた歴史的背景を音楽構造と照らし合わせ、音楽の進化とその種類についてを考え、自らの意見を持つことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・演奏する際に、既に学習した曲に正しい使い方を関連付けて、多面的に捉えたり目的に応じて適切に対応したりする力を養う。 ・音楽を形作る構成要素や音楽表現を楽器の持つ独特な特徴とその音色について考察することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・音楽表現の考えを用いて考察するよさを認識し、それらを活用しようとしたり、粘り強く考え音楽的論拠に基づき判断しようとしたりする態度を養う。 ・学習活動を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする態度を養う。	・教科書 ・プリント			○ ○ ○	【知識・技能】 ・曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ること、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○			10
	『音楽史〜クラシックとポップス〜』 【知識及び技能】 ・音楽が作られた時代や作曲家の違いに関する基本的な概念を理解できるようにする。 ・音楽が作られた歴史的背景を音楽構造と照らし合わせ、音楽の進化とその種類についてを考え、自らの意見を持つことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構成要素との関わり合いの考えを用いて音楽をどう作るかについて考察し、多面的に捉えたり目的に応じて適切に対応したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・構成要素との関わり合いの考えを用いて考察するよさを認識し、それらを活用しようとしたり、粘り強く考え音楽的論拠に基づき判断しようとする創造性の基礎を養う。 ・学習活動を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする態度を養う。	・教科書			○	【知識・技能】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・時代や作曲家の違いによる音楽の特徴を感じ取りながら曲や演奏について根拠をもって批評することに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○			13

[illegible]